
性同一性障害とは

まあちす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

性同一性障害とは

【Nコード】

N6978C

【作者名】

まあちす

【あらすじ】

思ったことを綴っただけ。今までの経験を簡単にまとめてます。つづきます

始まり（前書き）

同性愛が理解出来ない人はご遠慮下さい。

始まり

12月19日。

女として生まれた。

幼稚園

幼稚園のとき、『君が好き』などと言っていた覚えがある。

でもそれは本当に小さい頃。

好きと言うのは友達として。

自分が女だということ、スカートを履くこと、全て違和感がなかった。

小学校

私が

「レズ」

「性同一性障害」と気付き始めたのは、小学校4年生の頃。
好きになった相手が、同性の女の子だった。

当時は軽い気持ちで『好き』と、学校の友達や本人にカミングアウトをしていた。

遊び方も男の子と男の子の遊び。

格好も男の子。

男になりたかった。
スカートが嫌になった。

そのときは、
周りからの視線など気になるどころか、そんな考えすらなかった。
しかし親への罪悪感だけはあったから隠していた。変な子供だと思
われない為に。

中学校

中学生になったら同性愛だと言うことは、一番仲いい親友とよべる
1人の子以外に、全て隠した。
自分の中で同性愛は変だと思ったからである。

みんなは異性に興味を持ち、異性を好きになる。それが当たり前。

でもやっぱり女の子を好きになる。

女が好きだと言うこと隠してたけど
髪型、仕草、言動は男を意識して振る舞った。

ある日、好きになった子に何気無く言われた。
「男が好きと？女が好きと？」

本当の事を話し、その子に

「好き」だと告白をした。

鼓動が早くなる。

手は汗で湿り、顔が熱い。

初めての真剣な告白。

でも強がってしまう。

「返事はいらん。ただ伝えたかっただけ」

返事なんか怖くて聞けなかった。

恋は多分片想いで終わった。

中学校ではスカートが苦痛だった（笑）

高校

私服で通える学校を選んだ。

学科の内容など気にもしなかった。

色んな人と出会う。
自分と同じような
「仲間」と知り合う。
嬉しかった。

1人じゃない。

同年背格好も似てる。

でも違うのは交際経験、性経験があった。

性経験は中学の時に少し有ったが、無いのに等しい。

同性と付き合うことが物凄く羨ましかった。

仲間が出来た事で自信が付き、友達にカミングアウトできるようになった。

でも恋は失敗ばかりだった。

恋人

17才になると

「彼女」という存在の人ができた。喧嘩して距離を置いていた期間もあったが3年付き合った。

なんとなく出会い

なんとなく付き合って

なんとなく3年一緒だった
付き合い方もわからず。
初めての彼女。

別れの時は辛かった。

この人と居たときの自分は本当の自分じゃなかった。

素でいたつもりが、
素をだしてなかった。

3年間ずっと。

それからも出会いはあったが続かず。

女の子は俺に対して言う。

「ウチはどがんも思わんよ！別にあっていい！男とか女とか関係ないやん！」

そう言ってくれる子達は沢山いた。

でも俺と付き合ってることは皆に内緒。

知ってるのは周りの1部の人間。

みんなは大丈夫というが、
少しは抵抗があるんだろう。

「男だったらな〜」

軽く女に言われたことがある。

男だったら。

何回自分の性別を恨んだだろう。

いつそのこと生まれ変わりたいと思っただろう。

性同一性障害には、ある壁がある。

結婚、子供。

好きな人と自分の子供が欲しい。

「よかよね」。お前は妊娠させる心配ないけん」
と、男友達によく言われていた。

性同一性障害でも普通の家庭に憧れる。

1人の人間として。

男として。

結婚は海外では認められている場合もあるが
子供は不可能だ。

体外受精。

精子提供。

血が繋がることはない。

親父が女。

子供は理解に苦しむはずだ。

イジメの対象にもなるだろう。

子孫を残すことのない人間。

俺は何の為に生まれたのか。

生まれてはいけなかったのか。

警察の1人に優しい人がいた。

「若いうちは子供に憧れる。年取れば2人が一緒ならいいと思うひとが現れる。」

真剣に話してくれた。

でも強がった。

「自分も若いけん、気が変わって男に走るかもしれんしね。」

すると警察の人はこう言った。

「それはないと思う。お前は自分のことを男だと思って男友達と遊んでるんだらうけど、体は女ぞ。お前の体は利用レイプされたとき、立ち直りきらんぞ。」

男友達も、その辺はよく注意しとけよ」

聞いた話しはいい話しでは無かったが、嬉しかった。

赤の他人なのに真剣に話してくれた。

「俺は男に興味ない。男に興味持てって言われても無理。お前もそうやる？無理矢理変えても変わらんし、変える必要もなかない。お前はおまえぞ。」

でもやっぱり問題は子供…。

考えると死にたくなる。

生まれ変われば…。

でも自殺は嫌だ。

偶然にも事故に合うか、病気になってしまいたい。

今、目の前の小さな幸せが終わろうとするたびに思う。

何事もなかったように死ねたら。

好きになる人は子供好き。

子供を欲しがる。

これから先もその問題がついてくる。

早くこの苦しみに慣れたい。

普通の家庭を持つてみたい。

でも好きな人に好きって気持ちを隠しきれない。
相手が子供好きであっても。

好きになるのには理由はない。

でも絶対に気持ちが重いはず。

俺が好きになった人は不幸になってしまっ。

なんも良いことがない。

そう思えてきた。

終わり

嫉妬

ただ女が好きになるわけではない。

極端に男が嫌いだ。

友達とかは平気だけど、男は嫌いだ。

好きな人を取られる不安。

本物の男に負けたくないが、子供を作り、結婚できるのは男。

見るだけでムカムカしてくる。

なんで男の体で生まれて来なかったんだろう。

体の一部、腕、足、目。無くなっても構わない。

好きな人の子供を作れる男になりたい。

どんなに遊び人でも犯罪者でも、結婚ができる。
健全な体なら子供が作れる。

健康でも善人でもお金がいくらあつたしても、
自分の子供だけは作ることはいできない。

これは変えられない事実だから。

悔しい。

誰も恨むことも出来ない。

この、女の体のままで何ができるのか。

色んな意味で男に嫉妬をしてしまう。

俺の人生は、ただの無い物ねだりかもしれない。

子供

男じゃないから自分の子孫を残すことはないだろう。

でも好きな人が腹を痛めて生んだ子なら絶対に家族として育てることが出来る。

父親が誰であっても。

血の繋がり of 絆の強さを超える。

簡単なことではない。

もしそういう家族と呼べる人達が現れたら、もしくは受け入れても

らえるのなら、
命を掛けたい。幸せにするために。

好きな人の大切な子供だからこそ、自分にとっても大切な存在。

好きな人と一緒にいたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6978c/>

性同一性障害とは

2010年10月28日03時49分発行